Vol29, July,2019

NPO 法人　日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
－ JSPON －
News Letter　Vol.29

30 年間続いた平成が 4 月で幕を閉じ、5月から新年号が「令和」に決まり、新しい時代が始まりました。令和には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められています。令和の時代に育つ子どもとその家族が、多くの人と心を寄せ支え合い、穏やかな生活が送れるよう願っています。学会も新たな時代に身を引き締め、小児がんの子どもと家族への支援に向けて、皆様とともに活動していきます。

第 17 回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第 17 回日本小児がん看護学会学術集会を、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会とともに、広島コンベンションホール/広島県医師会館で、令和元年 11 月 14 日（木）～11 月 16 日（土）の３日間開催させていただきます。

今回の学術集会は、「ライフスパンで支える子どもたちの夢・希望・平和」をテーマといたしました。医療の進歩により、小児がんの治療成績は飛躍的に向上しています。長期フォローアップは、AYA 世代から壮年期、さらには老年期を眺望し、それぞれのライフステージの健康課題の解決と QOL の向上をめざしています。また、多くの方々の努力のもと、子どもたちやご家族が安心して療養の時間や場所を選べるよう、在宅医療、訪問看護、ホスピスなどが、施策の充実とともに拡大しつつあります。そこで、AYA 世代、エンドオブライフケアに共通する看護の取り組みとして、今回の学術集会は、子どもたちとご家族の「ライフスパン」に着目し、子どもたちとご家族の夢・希望・平和をかなえるケアをテーマといたしました。

特別講演は、小児がん経験者である小林咲里亜氏に、「病気から子ども達から多くを得て、今がある」をテーマに、治療中から今日に至るまでのご経験をお話しいただきます。教育講演は、チャイルドライフスペシャリストの藤原彩氏（広島大学病院）に、「前向きに生きる」をテーマに、子どもたちが元々持っている苦しい治療や検査を乗りこえる力を信じ、そのカを十分に発揮できるようなかかわりをご紹介いただき、子どもたちの笑顔の力についてお話しいただきます。

シンポジウム１「ケアをつなぐ」は、時間と空間を大きく広げ機能を拡大している多職種や多施設の連携についてお話しいただきます。シンポジウム２「エンドオブライフケアのチームアプローチ」は、小児看護専門看護師、訪問看護師、緩和ケア医師、臨床心理士、作業療法士の皆様に、病院や在宅での緩和ケアと看取り、ご家族のグリーフワークについて、お話しいただく予定です。

日本小児がん看護学会委員会は、セミナー「抗がん剤の基礎知識　～プロトコールを理解して先を見越した看護をしよう～」と、ワークショップ「日常的な実践に小児がん看護ケアガイドラインを活用しよう」を計画しています。３団体合同シンポジウムは、「小児・ＡＹＡ世代のがんと生殖医療を考える　～さまざまな選択～」を企画しています。２学会合同シンポジウムは、「小児がんに対する放射線治療のメディカルスタッフの役割　－　最適な放射線治療チーム構築に向けて」を予定しています。

今回の学術集会は、小児がん経験者や家族会の皆様など、一般の方が日本小児がん看護学会学術集会の講演やシンポジウムなどに参加できるよう準備を進めています。紅葉に彩られた自然あふれる広島で、皆様をお待ちしております。

第 17 回日本小児がん看護学会学術集会長
祖父江育子
（広島大学大学院医系科学研究科先駆的看護実践支援センター）

〔テーマ〕　**「ライフスパンで支える子どもたちの夢・希望・平和」**
会期　：令和元年 11 月 14 日（木）～11 月 16 日（土）
会場　：広島コンベンションホール/広島県医師会館
参加費：当日受付のみ　看護師　10,000 円（3 団体共通、すべての会場に参加可能）
〔プログラム〕

特別講演	「病気から子ども達から多くを得て、今がある」
教育講演	「前向きに生きる」
シンポジウム１	「ケアをつなぐ」
シンポジウム２	「エンドオブライフケアのチームアプローチ」
教育委員会セミナー	「抗がん剤の基礎知識　～プロトコールを理解して先を見越した看護をしよう～」
ケア検討委員会ワークショップ	「日常的な実践に小児がん看護ケアガイドラインを活用しよう」
３団体合同シンポジウム	「小児・ＡＹＡ世代のがんと生殖医療を考える」
２学会合同シンポジウム	「小児がんに対する放射線治療のメディカルスタッフの役割」

第 16 回日本小児がん看護学会学術集会の報告

第 16 回日本小児がん看護学会学術集会を、第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会、第 23 回がんの子どもを守る会公開シンポジウムとともに、2018 年 11 月 14 日（水）～16 日（金）の 3 日間、京都市のロームシアター京都/京都市勧業館みやこめっせにて開催いたしました。学術集会には、平日にも関わらず、1,709 名（医師 920 名、看護師 442 名、他職種 336 名、医学・看護学生 11 名）と多くの方にご参加いただきました。

教育公演は、京都大学大学院の田村恵子先生をお招きし、「小児の緩和ケアへの示唆ー成人・老人への緩和ケアを手がかりにー」をテーマにご講演いただきました。田村先生からは、成人のがん患者に緩和ケアを提供する看護師の能力習得を目的としてつくられた、The End-of-Life Nursing Education Consortium-Japan（ELNEC-J）コアカリキュラム看護師プログラムに基づく緩和ケアのご紹介をいただき、小児の緩和ケアへの、多くの示唆を得ることができました。看護シンポジウムは、「子どもらしさ家族らしさをささえるとは？ー子どもや家族の思いに寄り添いながら行う意思決定支援を考えてみようー」をテーマに、看護師、小児看護専門看護師、心理士、CLS と様々な立場の方に、日々の関わりの中での体験を発表していただきました。意見交換はリアルタイムアンケートを用いて行い、多くの方の意見をおうかがいすることができました。参加者の皆様には、様々な体験を共有していただけたことと思っております。

また、小児がん看護学会の各委員会により開催されたセミナー「日常的なケアに活かす看護研究のエビデンス～中心静脈カテーテル管理について～」、「小児がんの治療の曝露対策」、「小児がん看護師の認定制度についてー制度の概要と受講の仕組みー」では、小児がん看護に関する最新の情報が発信されました。

3 学会合同/CCI Educational Joint Program の公開シンポジウムは、「Life after Childhood Cancer Experience -Overcoming, Coping and Planning-」をテーマに開催され、医師の Andrea Ferrari 先生、看護師の Louise Soanes 先生、そして小児がん経験者の Patrick Yip 様からそれぞれの立場で、長期フォローアップに関する講演をいただき、とても貴重な機会となりました。

一般演題は 54 題（口演 52 演題・示説 2 演題）の発表が行われ、それぞれの発表で活発な御討議をいただきました。

今回は、プログラム全体をコンパクトにし、例年とは異なった開催となりましたが、多くの方にご参加いただきました。運営上の不手際もありましたが、皆様の温かいお力添えがあり無事に終了することができました。この場をお借りし、皆様に心から感謝申し上げます。

第 16 回日本小児がん看護学会学術集会長　堀妙子
（京都橘大学看護学部）

新体制の小児がん拠点病院が始まりました！

2019 年 2 月、厚生労働省で「第 8 回小児がん拠点病院の指定に関する検討会」が開催され、新小児がん拠点病院 15 施設が指定されました。小児がん拠点病院は、2013 年に全国 7 地域ブロック 15 施設が指定されて以来、初めての見直しとなります。新体制による指定期間は 2019 年 4 月～23 年 3 月の 4 年間です。今回の見直しには 25 施設から応募があり、初代の拠点病院 15 施設から、大阪府立母子保健総合医療センターが静岡県立こども病院と入れ替わりました。残りの 14 施設は継続して指定されたことになります。

小児がん拠点病院は小児がん診療の中心的役割を担うことが使命とされています。今回の指定を巡っては、昨年 7 月に「小児・AYA 世代のがん医療・支援のあり方に関する検討会」で指定要件の見直しが行われ、その新整備指針に基づく選定となりました。選考の要点は現行の整備指針に加えて、①地域の小児がん診療を行う病院との連携ができていること、②専門性の高いがん種等についての連携や情報が集約できていること、③小児がん患者等の長期フォローアップ体制、④AYA 世代（16～39 歳のがん患者を想定）への支援が論点になりました。

さらに今後新拠点病院が中心となり、7 ブロックの中で「小児がん連携病院」を指定していくことになります。小児がん連携病院は、「地域の質の高い医療及び支援を提供するため、ある一定程度の医療資源の集約化」を図ることを目的とし選定されます。その要件として、①拠点病院と同等程度の適切な医療が提供されていること、②特定のがん種等について診療を行うこと、③長期フォローアップが可能な体制であること、この 3 類型を起点に 2019 年 10 月を目標に決定される予定です。

本学会では新体制の中で、新指定要件に追加された「小児がん看護に関する専門的な知識及び技能を有する看護師」を育成し、拠点病院、連携病院へ輩出できることを使命とし尽力していきます。

政策委員会　井上玲子

◆ SIOP2018 の報告 ◆

2018 年 11 月 16 日～19 日まで、京都国際会館にて第 50 回国際小児がん学会が開催されました。学会長は中川原章先生（九州国際重粒子線がん治療センター）、看護部門の会長は、上別府圭子先生（本学会理事長）が務められました。今年は、91 か国から約 2500 人の参加者があり、過去の学会の中で最高の参加人数でした。

Keynote のうち二つはノーベル賞を 2018 年に受賞された本庶佑先生による PD-1 と PD-L1 に関する講演と、大隅良典先生によるオートファジーに関する講演でした。50 年の SIOP の歴史の中でノーベル賞受賞者による講演は初めてだったので、参加者から高い評価を貰いました。

学会前の看護の Educational day は［症状マネジメント］［セルフケアと症状についての親への教育］［終末期の意思決定］［小児がん経験者のアジアにおける国際的協働］について、医師や親の会と合同セッションでした。学会の看護セッションでは、口演 40 題、ポスター討論 14 題の発表があり、そのうち６題が日本からのものでした。数年ぶりにラウンドテーブルを企画し、国の体制や文化による違いや共通点について情報交換する機会を持つことができました。

さらに、日本での学会活動を海外の参加者に知ってもらうために、学会の英語版のパンフレットの作成と、学会ブースを設けて活動に関するポスター展示を行いました。ブースを訪れてくださった方と、日本における小児がん医療の現状や看護の課題について話をすることが出来ました。

今回、看護セッション全てに同時通訳を入れることが出来たことで、日本の看護師が海外における小児がん看護を学ぶと共に、自身の臨床を振り返る機会になったと思います。この場をお借りして、同時通訳にご寄付頂きました NPO 法人ハートリンクワーキングプロジェクトの多大なるご協力に深謝いたします。

国際交流委員会　小川純子

SIOP2019 のお知らせ

今年の SIOP は、下記の要領でフランスのリヨンにて開催されます。現在、10 月 21 日（月）と 22 日（火）にベルギーの病院見学を企画しています。ツアーの日程の詳細が決まりましたらホームページとメーリングリストでお知らせさせて頂きます。皆様、是非ベルギーとフランスに一緒に行きましょう。

場所：シティ インターナショナル コンベンション センター

日程：

Educational オープニングセレモニー：2019 年 10 月 23 日（水）

SIOP2019：2019 年 10 月 24 日～26 日

CNS のまめ知識

がんゲノム医療について

がんゲノム医療は、遺伝子情報に基づくがんの個別化治療の一つです。第３期がん対策推進基本計画（2018 年 3 月）において、がんゲノム医療の推進が掲げられ、がんゲノム医療中核病院（11 施設）が指定、その中核病院と連携するがんゲノム医療連携病院（156 施設）が公表されました（2019 年４月）。 そして、厚生労働省は「がん遺伝子パネル検査」を、６月１日から公的医療保険の適用対象とすることを決定しました。医療保険の適応患者は、標準治療がない固形がん患者（小児がんや希少がんなど一部）、局所進行もしくは転移が認められ標準治療が終了となった患者等で一部の患者です。

がんは、正常な細胞の遺伝子が変異することによって引き起こされる病気です。同じ臓器に発生しても、がん細胞に生じている遺伝子の変異は患者ごとに異なります。がんゲノム医療では、がん組織を用いてゲノム情報である DNA を網羅的に調べる（がん遺伝子パネル検査）ことで、どの遺伝子の変異によってがんが発症しているかを見つけ、一人一人の体質や病状に合わせた治療を行います。

がんゲノム医療を提供する上で理解しておくべきことがいくつかあります。一つ目は、この医療の不確実性です。この検査で見つかる薬剤の中には、保険診療が適応される一般の抗がん薬だけでなく、国内では未承認の薬剤や保険適応外の薬剤も含まれています。そのため、最終的な治療に繋がる薬剤が見つかるのは、これまでの研究からは 1～2 割といわれています。

二つ目は、ゲノム情報を調べることで、偶然、遺伝性の病気が見つかってしまう可能性（二次所見）があることです。複数の遺伝子を同時に解析するため、期待していた結果（治療に繋がる薬剤の情報）とは違う結果が見つかる場合があります。二次所見は、今後の健康管理に役立つ一方で、将来の不安など、新たな悩みを引き起こすこともあります。また、その情報は検査を行った患者本人だけでなく、その親やきょうだい等にもかかわる情報となる可能性もあります。二次所見については、知りたいか/知らされたくないか、他の家族にその情報を開示するか/しないかなど、検討すべき課題ともなります。

がんゲノム医療は、これから本格的に始まります。この医療はがんの治療の一つの選択肢として希望や期待が寄せられる一方で、複雑な倫理的な問題も伴う医療でもあります。この医療を選択する患者や家族の意思決定の場面、検査結果が出た後のサポート体制など、看護職の関わりが必要な場面が多くあります。どのように支援をしていくか、皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

埼玉県立小児医療センター　小児看護専門看護師

福地麻貴子

おしらせ

第 16 回小児がん看護研修会のご案内

第 16 回小児がん看護研修会を８月 24 日（土）に、聖路加国際大学 大村進・美恵子記念聖路加臨床学術センターで開催いたします。今回は「小児がん患者のきょうだい支援」をテーマに、第１部の講演では、病院のチャイルド・ライフ・スペシャリスト、きょうだい支援団体の代表、造血細胞移植コーディネーターの方からお話しいただきます。また、午後の第２部ではテーマに分かれてグループワークを行い、日頃のきょうだい支援における課題や、看護の立場でできることについてディスカッションする機会を設けています。申し込み方法やプログラムの詳細は、ホームページをご覧ください。こちらの QR コードからも申し込み可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

問い合わせ：教育委員会
Email：kenshu@jspon.com

【2018 年度会計報告】

＜収入の部＞

項目	決算額(円)	内訳
会員年会費	3,808,000	544 名分
事業収入	157,913	研修会事業収益
雑収入など	36,776	学会誌販売、受取利息など
前期繰越収支差額	9,845,259	
計	13,847,948	

＜支出の部＞

項目	決算額(円)	内訳
事業費	2,567,395	学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など
管理費	1,960,684	会員管理費、会議費、通信費、消耗品費など
計	4,528,079	

収入	13,847,948
支出	4,528,079
収支	9,319,869

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、１月～１２月となっております。2019 年度の振込みがお済みでない方は、お早目にお願いいたします。

［会費振込み先］
郵便振替口座：00590-9-79689
名称：特定非営利活動法人
日本小児がん看護学会

◆小児がん看護学会誌編集委員会より◆

次号の学会誌「小児がん看護」第 14 号は、９月の発刊を予定しています。毎年、学会誌「小児がん看護」に掲載された過去３年分の論文（今年は第 12～14 号）から、研究奨励賞が選出され、学術集会の期間中に開催される総会の後に発表と表彰がされます。学会誌「小児がん看護」は、総説（主題について多角的に知見を集め、総合的に学問的状況を概説し、現状と展望を明らかにしたもの）、原著（主題にそって行われた実験や調査のオリジナルなデータ、資料に基づき新たな知見、発見が論述されているもの）、研究報告（主題にそって行われた実験や調査に基づき論述されているもの）、事例研究（小児がん看護に関する現象を事例として提示し、有用な知見を論述したもの）、実践報告（ひとつもしくは複数の症例や臨床現場の実態を踏まえて行われた看護について報告し、論述されているもの）、資料（主題に関連する有用な調査データ や文献等に説明を加えたもので、資料としての価値があるもの）と、様々な種別があります。ぜひ、みなさまの様々な活動からの知見を「小児がん看護」でご発表ください。お待ちしています。

「小児がん看護師」資格取得の情報公開

日本小児がん看護学会認定「小児がん看護師（pediatric oncology nurse；PON）」の資格研修がいよいよ今年度から開始されます。2018 年に出された「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」に、『小児がん看護に関する専門的な知識及び技能を有することが望ましい』旨が記載されました。本学会では、社会の流れと時代のニーズに沿って、小児がん看護の専門性の高い看護師を育成していきいます。この制度の詳細についてはホームページに適宜更新いたしますので、）ご参照ください。

日本小児がん看護学会認定 小児がん看護師制度
http://jspon.sakura.ne.jp/doc/companion_for_PON.pdf
専用アドレス；pon-office@jspon.com

日本小児がん看護学会
理事長 上別府圭子
ニュースレター担当
東海大学医学部看護学科 井上玲子・杉村篤士
埼玉県立小児医療センター 田村恵美
［連絡先］ E-mail：rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp